

県議会議員〈広島市中区〉

佐藤 一直

いっちょく

〒730-8509 広島市中区基町10-52 広島県議会「広志会」控室
[TEL] 082-513-4620 [FAX] 082-223-0185



◆ 防災・減災対策に資する社会資本整備 ◆ 地域の建設業者の適正な確保の2項目を質問。さらには3、地域力強化につなげる今後の政策課題として、特に中山間地域の現状を踏まえて ◆ 二次保健医療圏の医療体制の充実 ◆ 定住促進に繋がる空き家対策等を代表質問の場で質問しました。



城戸会長を囲み、左から宮本・砂原・井原・佐藤の各県議

広志会議員紹介

会長 城戸常太〔呉市〕 農林水産委員会委員
地方創生・行財政対策特別委員会委員

砂原克規〔広島市西区〕 総務委員会委員
少子化・人材育成対策特別委員会委員

宮本新八〔山県郡〕 建設委員会委員
安心な環境づくり対策特別委員会委員長

井原 修〔東広島市〕 文教委員会副委員長
広域・国際観光振興対策特別委員会委員

佐藤 一直〔広島市中区〕 生活福祉保健委員会委員
地域魅力創造対策特別委員会委員
予算特別委員会副委員長

育成校の設置設計予算は、学校の規模や設置場所等が全て確定していないのに最大規模で予算案が組まれ、審議の手続を無視しているとして反対。5、県庁舎の耐震改修工事設計予算は、前述と同様に要求額に根拠がない上、莫大な費用を当面の耐震改修に充てるが、周辺地域も含めた都市機能強化策がみえないとして反対。6、水道事業の事業運営権を民間企業に売却する制度案は、水の安定供給は公共が確保すべきライフラインの中で最も重要なものであり、しっかりと行政のコントロールが必要なことから反対しました。

県民のためになるかを軸に議会で

代表質問のポイント

県民が納得できる広島県政実現を目標に、広志会は新旧の課題が解決するまで問題提起する姿勢を続け、今定例会でも知事の考えを問いました。まず

- 1、長期的な展望に立った県政運営の在り方についてとして
- ◆ グローバルリーダー（GL）育成校の設置 ◆ 県庁舎の改修事業の在り方 ◆ 広島市東部地区連続立体交差事業 ◆ 県営水道事業の民営化の4項目を質問。

次に2、防災・減災対策に取り組む県の責務についてとして

- ◆ 防災・減災対策に資する社会資本整備 ◆ 地域の建設業者の適正な確保の2項目を質問。さらには3、地域力強化につなげる今後の政策課題として、特に中山間地域の現状を踏まえて ◆ 二次保健医療圏の医療体制の充実 ◆ 定住促進に繋がる空き家対策等を代表質問の場で質問しました。

6項目の反対討論を

代表質問に続き、裁決の際に、執行部の6つの提案に対して反対意見を述べました。

- 1、県職員の給与引き上げと管理職手当の引き上げについては、成果主義という目的が公平性を欠くことから反対。2、広島がん高精度放射線治療センターの補正予算には、極めて甘い経営計画により生じた赤字を一般財源で補てんすることには反対。3、東部連続立体交差事業は、地元合意が得られておらず反対。4、グローバルリーダー



サッカースタジアム問題について

話題のサッカースタジアム問題、明らかに県市の対応はひどい。最初から宇品の「みなと公園」ありきで進めているような不公平な手法。こんなことをされると、サンフレッチェの久保会長が独自案を発表するのもし方がない。

テレビ中継もされましたが、私は「予算特別委員会」でこの問題を取り上げました。

今回の件を引越以上に例えれば、郊外に住むAさん、少し不便なので街中に引越しようとする業者に依頼しました。それなのに、その業者は何故か同じ様な郊外の物件を持参。さらに、「街中だとこんなに高いですよ」と、郊外と同じ大きなものを街中との比較対象に……。当然、同じ大きさなら街中の方が高いはず。

Aさんは、「街中で、小さくてもいいから、安い物件を」と何度も言ってもその業者は聞く耳を持たず、ひたすらその郊外

物件の押し売りです。困ったAさん、とうとう自力で物件を探し、業者に「こんな安くいい街中の物件あったよ！」と見せたら、何も答えられませんでした。というものと同じことです。

サンフレッチェ側の要望を全て受諾することは出来ないと思いますが、候補地として「市民球場跡地」が残っているなら、そこをサンフレッチェ側が希望するのは当たり前で、もしダメなのであれば最初から候補地として認めなければ良かつたはず。建ててもいいですよと言いつつ、実際には建てたくない。港湾業者が猛反対しようが、港のあり方として非常識だろうが、無理矢理に宇品にする。そんなやり方では全く説得力に欠けます。

「サッカースタジアム検討協議会」にしても、サッカー関係者の意見をまとめる場なのかと思いきや、それに反論する方々ばかりが委員に選任されていて、

さらに、議事録さえも保管していない、ホントいい加減な協議会でした。（これを指摘すると、実はありましたと後日、議事録を持つてきました。）

これは、何もスタジアムの問題だけではなく、県の他の事業も同様です。鞆の浦や広島市東部連続立体交差事業（JR高架化）、広島高速3号線（南道路）など、これらも住民との約束を途中で反故にして計画変更しています。そんなやり方が最近の広島県は多すぎます。

しかも、今回のサンフレッチェ側の案では、県や市のお金を使わずに「民間資金」を主に建設していくものであり、行政としてはこんな有り難い提案を、検討もせずに「多額の税金を使う宇品案」で進めていくのは、説明が足りないと思っています。

そこで3月10日の委員会では、3月末での結論を延期するよう要望しました。それは「民間資金活用案」の検討だけでなく、県庁の建て替えや移転による敷地の活用も含めて、中心部の活性化ビジョンを示すべき

だと思っからです。全てが中途半端な広島はもうやめましょう。しっかりと議論すべきです。（その後、3月22日に広島経済同友会も県庁移転を広島県に提言されました。）

議員報酬もひそかにアップ：

我々の会派が反対した人事委員会の勧告。管理職の給与を成果主義の名の元に、仕事結果に反映させるとの理由ですが、公務員の仕事には合わないのは明らかです。賛成多数で可決しましたが、もう一つ、民間との比較により職員の給与もアップし、何故か自動的に議員の報酬も……。この制度、考え直すべきです。

